

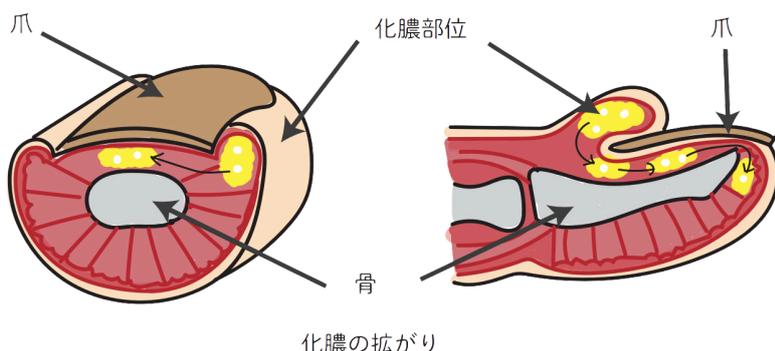


paronychia

# 爪周囲炎

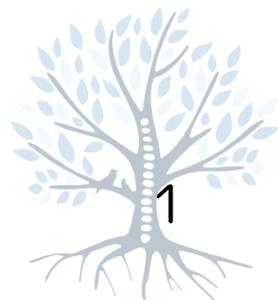
## 病態

爪周囲炎（そうしゅういえん）は、ささくれ（さかむけ）、深爪、陥入爪、マニキュア、爪を噛む癖等の原因で化膿菌が侵入して発生し、爪の根元に向かって化膿が進んでいきます。化膿菌には黄色ブドウ球菌やレンサ球菌などの細菌、カビの一種であるカンジダなどがあります。また、ひょう疽という指先の腹側まで化膿するような病態もあります。



## 症状

急性炎症では爪の周囲の痛み、発赤、腫れがあり、進行すると膿が溜まります。ズキズキする痛みで、眠れないこともあります。

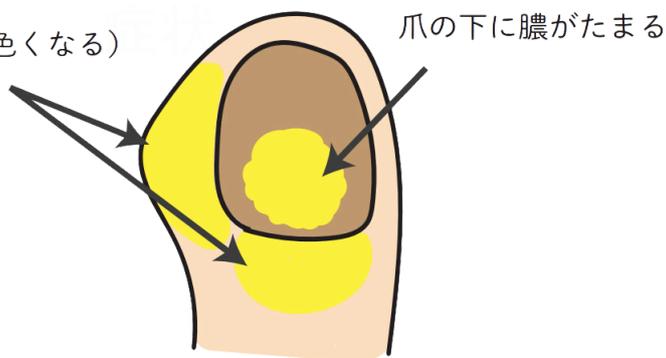


# 爪周囲炎

## 診断

爪の側面、爪の付け根の痛み、発赤、腫れがあらわれ、進行すると膿がたまって黄色くなります。爪の下に膿がたまることもあります。どの抗生物質を使用すると効果的かを判断するために培養検査やグラム染色を行う場合もあります。このほか、炎症が広がりを確認するため、レントゲンやMRIなどの画像検査を行うこともあります。

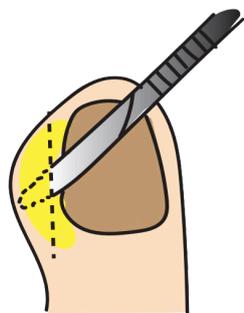
発赤（膿がたまると黄色くなる）  
はれ



爪の下に膿がたまる

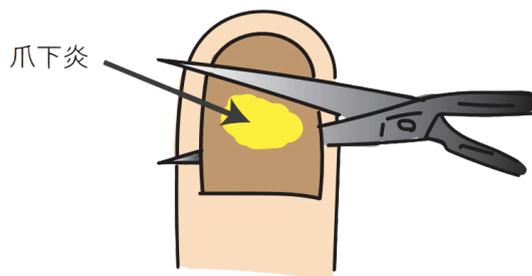
## 治療

治療の基本は抗生物質と排膿（膿の排出）です。それぞれの細菌やカビに効果がある抗生物質を内服して治療します。膿がたまっているときは、切開し排膿します。爪の下にまで膿がたまっていれば、爪を切除して膿を出す必要があります。



切開して膿を出す

爪下炎



部分的に切除して膿を出す

